

氏名（本籍）	やました なおひと 山下 直人 （ 広島県 ）
学位の種類	博士（医学）
学位授与番号	乙 第 95 号
学位授与日付	令和 5 年 3 月 9 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	Prescription Patterns of Antimicrobial Agents for Upper Respiratory Tract Infections in Patients Visiting the Emergency Department of Kawasaki Medical School Hospital: A Descriptive Study
審査委員	教授 齊藤 峰輝 教授 杉本 研 教授 塩谷 昭子

論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

抗菌薬は現代の医学・医療において欠かせない薬剤の一つであるが、不適切な使用を背景に薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、世界中で大きな問題となっている。特に上気道感染症（URTI）では、原因病原体の大半がウイルスであるにもかかわらず、40～60%の患者に抗菌薬が使用され、その多くが広域スペクトラムを有する抗菌薬（広域抗菌薬）であると報告されている。本研究は、川崎医科大学附属病院救急外来を受診した急性の URTI 患者に対する抗菌薬使用の実態を明らかにすることを目的とした。対象は 2014 年 1 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までに川崎医科大学附属病院救急外来を受診し、URTI（感冒、急性上気道感染症、急性咽頭炎、急性扁桃炎、急性気管支炎、急性副鼻腔炎）と診断された患者で、小児患者（15 歳未満）、救急搬送された患者、診察時間内（平日 8：30～15：30、土曜 8：30～11：00）に受診した患者は除外した。合計 3,920 例が解析対象となり、URTI に対する抗菌薬処方数は 1023 例、処方率は 26%であり、従来の報告（40～60%）よりも低かった。一方、急性鼻副鼻腔炎および急性気管支炎に対する抗菌薬使用率はそれぞれ 51%、38%と高く、不適切使用の可能性と改善の余地が示唆された。処方された抗菌薬のうち、第 3 世代セファロスポリン系（CEPs）が 40%以上、広域抗菌薬が 84%を占めていた。川崎医科大学附属病院では、抗菌薬適正使用のための介入・支援、講演会等の様々な取り組みが行われていること、医学生や研修医に対する教育を行う教育病院であること、一般に総合病院の外来では無床診療所より経口抗菌薬の処方が行われにくいこと等、様々な要因が URTI に対する抗菌薬処方率の低さにつながっている可能性が考えられる。今後とも、広域抗菌薬、特に URTI への処方頻度が高い第 3 世代 CEPs に対する介入を含めた抗菌薬適正使用支援のさらなる推進が必要である。本論文は、川崎医科大学附属病院救急外来を受診した URTI 患者に対する抗菌薬使用の実態を明らかにして問題点を指摘した、きわめて重要な報告である。

学位審査会（最終試験）の結果の要旨

学位審査会は 2022 年 12 月 21 日に開催された。まず申請者から、研究を実施するに至った背景と具体的

な手法、主要な結果と考察について約 15 分間のプレゼンテーションがなされた。その後、3 名の審査委員と質疑応答が約 15 分間行われた。本論文で明らかにした、川崎医科大学附属病院救急外来を受診した URTI 患者に対する抗菌薬使用の実態と今後の検討課題が簡潔かつ明瞭に示され、その学問的意義を十分に理解することができた。発表後は審査委員と以下の質疑応答が行われた。対象を抗菌薬適正使用ガイドライン発表前の URTI 患者に絞った理由（回答：ガイドライン後と比較するため）、対象を救急外来に限定した理由（回答：時間内はほとんど総合診療科で診ており病院全体を反映しないため）、総合診療科と他科医師とで処方状況に差があるか（回答：総合診療科と他科医師との処方状況の差についてはデータがない）。総合診療科での抗菌薬処方状況は（回答：他科と比較して低く、後に発表されたガイドラインに近かった）、調査後、処方状況は改善されたか（回答：レジデントへの教育等により改善している）、同時期に救急外来での処方状況を調査した他施設からの報告はあるか（回答：救急外来に限定した報告はない）、病名の選択は誰が行ったのか（回答：レセプトの保険請求上記載した病名から自動抽出しており、正確性の担保には限界がある）、不適切使用されやすい抗菌薬を採用しない施設もあるが、どう考えるか（回答：様々な状況に対処するための薬剤は持っておき、教育による適正使用を目指すほうが望ましいと考える）、併存疾患の有無等で分類したデータも出せたのではないか（回答：救急外来ではカルテ記載に限界があり、正確な分類が困難であった。年齢層別のデータについては今後検討したい）、URTI に処方される頻度の高い第 3 世代 CP に対する介入とは具体的に何か？（回答：近年導入された「抗菌薬適正使用支援加算」も含め、全年代の医師に抗菌薬適正使用の意義について周知・教育することである）

以上より、本研究は当該領域において高い学問的意義を持つ学位論文に相応しい研究であり、また申請者自身の知識量と今後の研究遂行能力についても十分と判断され、審査委員は全員一致で最終試験の結果を合格とした。